

男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する 調査研究報告書



国立女性教育会館

はじめに

家庭教育は、個々の親が行う私的な教育で教育の原点です。次代を担う子どもを育てることは社会にとって重要な意味があり、時代の変化とともに家庭教育を支援することの必要性は大きくなってきました。

また、少子高齢社会を迎え、社会のあらゆる分野への女性の参加・参画が求められ、平成11年6月「男女共同参画社会基本法」が施行されました。子どもたちにはこれからの社会の担い手として幼少期から男女平等意識を身につけることが期待されています。

国立女性教育会館では文部科学省の委嘱を受け、「男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究」を平成10年度から3年計画で進めてきました。男女共同参画の視点で家庭教育事業を進めていくためにはどのようにしていけばいいのかを課題として、1年次には都道府県教育委員会等の作成する家庭教育資料の収集と分析、家庭教育担当者を対象としたアンケート調査、2年次にはブックレットの作成と研修プログラムの検討、3年次には実験プログラムの実施という研究計画のもとに研究を進めてきました。

この報告書は3年次に実施した実験プログラムの実施報告と3年間の研究成果「男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究の課題と展望」という2部構成でまとめられています。生涯学習・社会教育において家庭教育支援事業を担当している担当者、女性関連施設等の職員、その他子育て支援に関わっている方々の参考になることを願っております。

最後になりましたが、調査研究に熱心に取り組んでいただいた研究委員の方々に感謝申しあげるとともに、3年間の研究の中でアンケート調査、実験プログラム等にご協力いただいた方々をはじめ調査研究の推進にあたり、ご支援、ご協力いただきました多くの方々に心からお礼申し上げます。

平成13年3月
国立女性教育会館長
大野 曜

はじめに

家庭教育は、個々の親が行う私的な教育で教育の原点です。次代を担う子どもを育てることは社会にとって重要な意味があり、時代の変化とともに家庭教育を支援することの必要性は大きくなってきました。

また、少子高齢社会を迎え、社会のあらゆる分野への女性の参加・参画が求められ、平成11年6月「男女共同参画社会基本法」が施行されました。子どもたちにはこれからの社会の担い手として幼少期から男女平等意識を身につけることが期待されています。

国立女性教育会館では文部科学省の委嘱を受け、「男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究」を平成10年度から3年計画で進めてきました。男女共同参画の視点で家庭教育事業を進めていくためにはどのようにしていけばいいのかを課題として、1年次には都道府県教育委員会等の作成する家庭教育資料の収集と分析、家庭教育担当者を対象としたアンケート調査、2年次にはブックレットの作成と研修プログラムの検討、3年次には実験プログラムの実施という研究計画のもとに研究を進めてきました。

この報告書は3年次に実施した実験プログラムの実施報告と3年間の研究成果「男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究の課題と展望」という2部構成でまとめられています。生涯学習・社会教育において家庭教育支援事業を担当している担当者、女性関連施設等の職員、その他子育て支援に関わっている方々の参考になることを願っております。

最後になりましたが、調査研究に熱心に取り組んでいただいた研究委員の方々に感謝申しあげるとともに、3年間の研究の中でアンケート調査、実験プログラム等にご協力いただいた方々をはじめ調査研究の推進にあたり、ご支援、ご協力いただきました多くの方々に心からお礼申しあげます。

平成13年3月
国立女性教育会館長
大野 曜

目 次

はじめに

第Ⅰ部 調査研究の概要

調査研究の概要 7

第Ⅱ部 男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究実験プログラム

埼玉県嵐山町教育委員会「のびのび親子共育塾」 13
千葉県立花園小学校「もっと上手にカンパセーション」 35
東京都小金井市公民館「生き方はひとつじゃない」 55
横浜市都筑区役所「これからのライフプラン」 87
静岡県島田市教育委員会「楽しい子育てセミナー」 105
愛知県教育委員会「家庭教育支援者（子育てネットワーク）養成講座」 127
国立女性（婦人）教育会館「家庭・地域で担う子育て支援セミナー」 149

第Ⅲ部 男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究の課題と展望

1 どうして家庭教育に男女共同参画の視点が必要なのか
恵泉女学園大学教授 大日向雅美 171
2 プログラムの企画から実施への留意点 静岡大学教授 馬居 政幸 175
3 プログラムの実践と評価 国立教育政策研究所総括研究官 山本 慶裕 193
4 家庭教育事業における男女共同参画の視点に立った広報政策の問題点
フェリス女学院大学教授 諸橋 泰樹 205
5 行政担当者の立場から 愛知県教育委員会生涯学習課主査 坂田 正俊 217
6 参加者の意識の変容とその要因の分析
国立女性教育会館事業課主任研究官 中野 洋恵 223

まとめ 男女共同参画の視点に立った家庭教育事業を企画するために

恵泉女学園大学教授 大日向雅美 235

(1) 男女共同参画の視点に立った家庭教育事業のチェックポイント	238
(2) 講座事業のチェックリスト	240
〈参考〉	
平成10～12年度「男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究」	245
研究経緯	
男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究実験プログラム	
参加者アンケート 事前用	253
参加者アンケート 事後用	257

第 I 部

調査研究の概要

調査研究の概要

1. 趣 旨

幼児期から性別にとらわれず、一人一人の多様な個性や人権を尊重し、男女共同参画を高める意識や価値観を育む家庭教育推進方策の在り方について調査研究を行うとともに、男女共同参画の視点に立った家庭教育プログラムの開発、教材等を作成する。

2. 実施期間

平成10年度～平成12年度（3年計画）

3. 実施方法

(1) 研究委員会の設置

国立女性（婦人）教育会館に研究委員会を設置し、年次計画に沿って調査研究を進めることとする。（3年計画）

- ①第1年次：都道府県教育委員会等の作成する家庭教育関係資料を収集し、ジェンダーの視点から内容や表現等について分析する。また、教育委員会家庭教育担当者に対し、事業の計画や資料作成の際、どのような意図で内容を決定しているか、ジェンダーの視点を意識的に取り入れているか、などについてアンケート調査を行う。
- ②第2年次：家庭教育関係行政担当者や指導者のためのジェンダーの視点に立ったブックレットを作成する。
- ③第3年次：ジェンダーの視点に立った家庭教育関係行政担当者や指導者の養成のためのモデル研修プログラム、家庭教育学級等の学習プログラムサンプルを作成する。

(2) 研究委員会委員（6名）

馬居 政幸……静岡大学教授	教育社会学
(座長)大日向雅美……恵泉女学園大学教授	発達心理学
小塚 淳子……（平成10、11年度）愛知県教育委員会教育主事	家庭教育行政
坂田 正俊……（平成12年度）愛知県教育委員会生涯学習課主査	家庭教育行政
諸橋 泰樹……フェリス女学院大学助教授	社会心理学
山本 慶裕……国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官	社会教育
中野 洋恵……国立女性（婦人）教育会館事業課主任研究官	家庭教育

4. 平成10年度の研究経過（研究委員会5回開催、ワーキンググループ5回開催）

(1) 家庭教育資料の分析

平成9年度に都道府県教育委員会等で作成された家庭教育に関する資料の中から、親向けのパンフレット、リーフレット、ハンドブック等を抽出し、記載内容やイラスト等について分析した。

サンプル数：91冊

調査項目：資料の装丁（判型、ページ数等）

対象とされている読者及び執筆者

タイトル、言及分野

（２）家庭教育行政担当者に対するアンケート調査実施

全国の都道府県、市等の家庭教育行政の担当者を対象に家庭教育関連事業の実施状況と男女共同参画の視点に立った家庭教育を進めるための課題及び担当者の研修機会・情報収集方法などの実体を明らかにするために質問票を作成し、アンケート調査を実施した。調査結果は「男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究アンケート調査報告書（平成11年３月）」としてまとめた。

対象者：都道府県、市、特別区の家庭教育行政担当者

サンプル数：調査対象 740 回収サンプル数 523（回収率 70.6%）

実施期間：平成10年11月

調査項目：・家庭教育担当年数

・担当している家庭教育事業

・家庭教育の事業や企画に関わる委員会の委員構成

・委員の職業、委員の中に占める女性の割合

・男女共同参画に関する研修の機会と満足度

・男女の役割分担についての意識

・男女共同参画の視点に立った家庭教育事業を進める上での課題等

（３）行政担当者に対するヒアリング調査

アンケート調査の質問事項をより具体的にするために、ヒアリング調査を全国18都道府県で実施した。

質問項目：家庭教育事業の概要

- | | |
|--------------|--------------|
| 1) 北海道教育委員会 | 2) 青森県教育委員会 |
| 3) 山形県教育委員会 | 4) 栃木県教育委員会 |
| 5) 東京都教育委員会 | 6) 福井県教育委員会 |
| 7) 静岡県教育委員会 | 8) 三重県教育委員会 |
| 9) 京都府教育委員会 | 10) 貝塚市中央公民館 |
| 11) 兵庫県教育委員会 | 12) 奈良県教育委員会 |
| 13) 鳥取県教育委員会 | 14) 岡山県教育委員会 |
| 15) 徳島県教育委員会 | 16) 高知県教育委員会 |
| 17) 佐賀県教育委員会 | 18) 沖縄県教育委員会 |

5. 平成11年度の研究経過（研究委員会10回開催、ワーキンググループ5回開催）

男女共同参画の視点に立った家庭教育ブックレットの作成

家庭教育行政担当者や子育て支援に取り組んでいる人を対象としたブックレット（A5版 62ページ イラスト入り）を作成した。

男女共同参画、はじめの一步を家庭から —家庭教育事業推進のための理論と実践—

はじめに

I 理論編

Q1 家庭教育事業を企画するときに、なぜ男女共同参画の視点を入れることが必要ですか？

ジェンダー・バイアス

ジェンダーに敏感な視点

Q2 世代によって男女共同参画に疑問を持つ場合がありますが、どのように考えればよいのでしょうか？

出生率の変化とその背景

Q3 なぜ子育てをつらいと感じる母親が多いのでしょうか？

Q4 なぜ父親が育児に参加しなければならないのですか。母親が育てるのが自然ではないのですか？

コラム：差別と区別

コラム：家庭内暴力と児童虐待

コラム：「三歳児神話」からの解放

Q5 家庭に何かがあったときに父親の毅然とした態度と決断が必要ではないのでしょうか？

Q6 「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたい」という声に対してどのように答えたらよいのでしょうか？

Q7 家庭教育にどうして地域での支援が必要なのですか？

Q8 家庭教育支援をきめ細かくゆきわたらせるには、どのように工夫したらよいのでしょうか？

Q9 事業を成功させるために、他部局等との連携はどのようにしたらいいですか？

II 実践編

①家庭教育事業の企画、運営上の工夫

②実践のためのプログラム案

1. 中高校生向け「こんな家庭を21世紀に作ってみたい」
2. 成人・未婚の男女向け「私の人生：これまで、そして、これから」
3. 新婚期の男女、妊娠中の母親・父親向け「〇〇市の出産・育児情報誌を作ろう」
4. 乳幼児を持つ親向け「楽しい子育て」
5. 小学生の子どもを持つ親向け「子どもって素晴らしい」
6. 思春期の子どもを持つ親向け「ジェンダーに敏感な親として」
7. 高年期に備える親向け「家庭のライフプラン」
8. 働く男性、働く女性向け「仕事と子育て、どちらも生きがい」
9. 小学生の父親向け「お父さんのパワーアップ講座」
10. 家庭教育支援者向け「あなたも子育て支援の力を」
11. 企業の人事・福利厚生・労務管理者向け「家庭教育を支援する企業をめざして」

③家庭教育資料作成にあたってのポイント

III 参考情報編

①男女共同参画に関する社会の動きや法制度

②参考文献一覧

6. 平成12年の研究経過（研究委員会5回開催、実行委員会2回開催）

男女共同参画の視点に立った家庭教育関係行政担当者や指導者の養成のためのモデル研修プログラム、11年度に作成したブックレットの学習プログラムサンプルをもとに実験プログラムを実施した。実験プログラムの成果から効果的なプログラム実施のあり方について検討した。3年計画の3年次として3年間の研究の成果として、研究の趣旨と研究経過、男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究実験プログラム、課題と展望をまとめた報告書を作成した。

(1) 実験プログラムの実施 実験プログラムの実施のために研究委員会委員に加え実験プログラム実施に関わる委員による実験プログラム実行委員会を設置し、7プログラムを実施した。

実験プログラム実行委員

柴崎 俊一	埼玉県嵐山町教育委員会生涯学習課社会教育係
佐藤あずさ	千葉市立花園小学校PTA研修部
長堀 雅春	東京都小金井市公民館本町分館事業係主事
岩田 純子	神奈川県横浜市都筑区役所生涯学習振興課
岡田ちな美	静岡県島田市教育委員会生涯学習課主事
金 朝子	国立女性（婦人）教育会館事業課専門職員
上岐 都子	国立女性（婦人）教育会館事業課専門職員

実施プログラム

	実施機関	プログラム	実施日（平成12～13年）
1	埼玉県嵐山町教育委員会	のびのび親子共育塾 （小学生の子どもをもつ親向け）	12年10月7日（土）22日 （土）11月18日（土）12月2日 （土）16日（土） 13年1月20日（土）
2	千葉市立花園小学校	もっと上手にカンパセーション （小学生の子どもをもつ親向け）	12年12月2日（土）16日（土） 13年1月20日（土）
3	東京都小金井市公民館	生き方はひとつじゃない （中高生向け）	12年9月9日（土）～10日（土）
4	横浜市都筑区役所	家庭のライフプラン （高年期に備える親向け）	12年11月11日（土）18日 （土）25日（土）
5	静岡県島田市教育委員会	楽しい子育てセミナー （乳幼児をもつ親向け）	12年9月2日（土）16日（土） 10月7日（土）21日（土）29 日（日）11月12日（日）
6	愛知県教育委員会	家庭教育支援者 （子育てネットワーカー）養成 講座	12年7月25日（火）8月29日 （火）10月13日（金）11月15 日（水）
7	国立女性（婦人）教育会館	家庭・地域で担う子育て 支援 セミナー	12年9月8日（金）～9日（土）

(2) 報告書の作成 3年間の成果をまとめ報告書を作成した。

第Ⅱ部

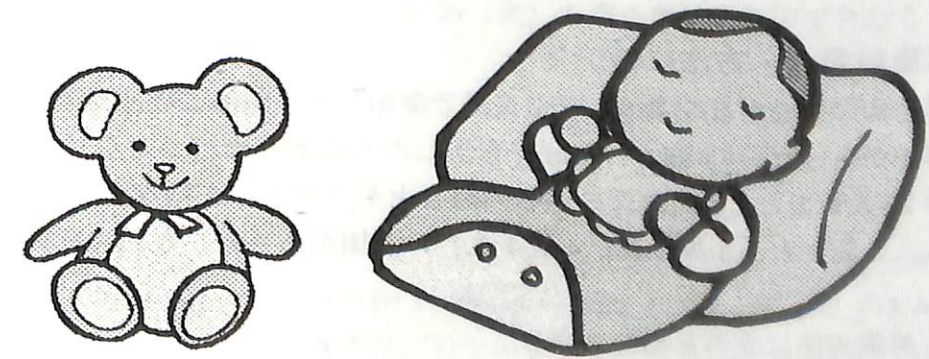
男女共同参画の 視点に立った 家庭教育推進方策に関する 調査研究実験プログラム

「男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究」

楽しい子育てセミナー

—男の子らしさ？女の子らしさ？それともその子らしさ！—

実施報告書



島田市教育委員会

しまだっこ子育て支援ネットワーク

3 プログラムの展開と参加者の反応

第1回

日 時 平成12年9月2日(土) 9時30分～11時30分
場 所 おおるり中会議室
内 容 みんなで子育て その1 (講義・自己紹介)
講 師 静岡大学教授 馬居政幸
参加人数 25人(男性4人 女性21人)

グループ討議：子育ての悩みについて

1班(母親5人)《育児ストレスを感じているが、
どのように発散させればよいか分からない》

◎4歳女と3歳男をもつ人

- ・同居と育児にストレスを感じている
- ・夫のサポートを期待している
- ・とげとげした心を夫に丸めてもらいたい
- ・父親として家事や育児の手伝いをしてほしい

◎2歳7ヶ月男と1歳1ヶ月女をもつ人

- ・出産を期に育児に専念した
- ・子どもと自分だけになるとストレスを感じる
- ・他人の子の面倒を見ている時は余裕があるが、自分の子に対しては悩んでしまう
- ・子育てが義務に感じられる

◎3歳女と7ヶ月女をもつ人

- ・子どもが姉妹ゲンカをしてしまう
- ・子どもが成長しているのは分かるが、治め方が難しい
- ・夫と些細なことで衝突してしまう
- ・自分なりのストレス解消法を探している

◎3歳男をもつ人

- ・フルタイムで共働きをし、子どもは義母が面倒をみってくれる
- ・子どもと接する時間が少ない・自分自身の時間がないことが悩み
- ・夫は自分の趣味優先で、休日に家族で遊びに行きたいのにできない

◎4歳と2歳女と2ヶ月男をもつ人

- ・真ん中の子がわがまま、それが上の子のストレスになっている
- ・夫は仕事のストレスを抱えているので、自分のストレス発散場所がない
- ・家に閉じこもり気味で外出できない

夫の出番を期待しているが、思ったような活躍はない。うまく家事・育児に参加させる方法はないのか?



自己紹介と悩みを話し合う受講者達

2班(母親5人、父親2人)《子どもをどのようにしつけていいか分からない》

◎子どもの叱り方

- ・おもちゃをとったり、叩いたりするのをどうやって叱ったらいいか分からない
- ・2階なので走ると下の階の人に怒られたが、実家では走り回っているので、叱った方がよいのか

◎成長の度合いに対する不安

- ・6ヶ月の男の子で寝返りが遅い
- ・1歳2ヶ月になるが、哺乳瓶がまだとれない
- ・歯磨きを嫌がる

◎時間不足

- ・仕事が忙しく、子どもの面倒を見る時間がない
- ・休みが少なく子育てに参加する時間がない。
これからどのような影響が出るのか心配
- ・雨の日に遊ぶ場所がない



グループ毎に発表

3班(母親5人、父親2人)《子どもをどのようにしつけていいか分からない》

◎子どもの叱り方

- ・落ち着きがなく、あっちこっちに走って行ってしまったりする。また、飽きっぽくひとつのことに集中しないがどうしたらよいのか
- ・わがままで、そのときの気分によっては人の言うことを聞き入れない
- ・駄々をこねたときにどうしたらよいのか分からない。怒るべきなのか、それとも他のことに気をそらせてしまえばよいのか

◎子どもが言うことを聞かないときや、自分にゆとりがない時など、どうしても感情的になってしまう

◎子どもが悪いことや危険なことをしたときに、どのように教えればよいのか

◎二人の子ども両方の個性を生かしてあげたいが、それぞれをうまく生かしてあげられない

◎子どもの後追いに対して、父親は母親のように子どもの成長のためと離れてやることができず、ついついかまってしまう

希望 お母さん、お父さんが気軽に子どもを預けられるところがあればよいと思う

4班(母親7人)《子育て中の人間関係(親同士、子ども同士)》

◎しつけについて

- ・食べ物好き嫌いが多い、食事のむらが多い
- ・子どもが暴力的、すぐに噛みつく
- ・なかなか眠らない

◎幼稚園の年長、年少の年子。下の子が姉の言うことを聞かなくなってきた、姉も縮こまってしまっている

◎幼稚園年長の女の子と2歳の男の子。上の子がやきもちを焼く

◎1歳10ヶ月、兵庫から転勤してきたばかり。年上の子とばかり遊んできたので、同年齢の子

- と上手に遊べない。わがままな性格で、どこで妥協していいのかさじ加減が分からない
- ◎夫の両親が育児に口を出してくるのが耐えられない。自分がいろいろと考えて子育てしていることを否定されたような気分になる。世代のギャップによる子育て観の違いも感じる
- ◎夫が子育てに無関心である

全体を通して浮かび上がってきた主な問題点

- ①子育ては孤立しない(複数の人数で育てよう)
- ②日常の子どもの起こす問題の治め方
- ③子どもにきちんと教えること
- ④家族にルールはあるか



馬居さんによる講義

(第2回)

日 時 平成12年9月16日(土) 9時30分～11時30分

場 所 おおるり中会議室

内 容 みんなで子育て その2 (ワークショップ・講義)

講 師 静岡大学教授 馬居政幸

参加人数 25人(男性5人 女性20人)

グループ討議：前回挙げられた問題点について

- ①子育ては孤立しない(複数の人数で育てよう)

1班

- ・積極的に地域の子育て広場に参加する
- ・実家の祖父・祖母にどんどん協力してもらう
- ・家事分担・家族サービスなど、わかりやすい役目を作って父親にもできるだけ参加してもらう
- ・父親と子どもを向き合わせるために、一時間でもいいから子どもと離れる時間を作ってみる
- 託児所で子ども同士の関係もつくることのできる
- 父親を参加させる作戦
- ・弱者を演じる…父親に対して、「なぜやってくれないの!？」と攻撃するのではなく、弱そうなところを見せて同情をあおる
- ・言い方・誘い方…あくまで低姿勢。おだてて相手が気持ちよくなるような言い方をする。
- ・適材適所…母親の家事・育児のきっかり半分を父親にやらせようとするのではなく、父親は母親のケアをするなど、関わりやすいところから参加してもらう
- ・あてにしない…期待しすぎると余計にイライラするので、少し手伝ってくれただけでも感謝する

2班

- ・子どもに自分から話かけるようにしている←父親

3班

- ・子どもの輪、近所の輪を育てる。近所なら行き来もしやすく、付き合いがあれば他の家の子どもでも気軽に叱ってもらえる
- ・近所に同居家族が多いと、その分大人の人数が増えるので、みんなで子どもの様子を見ることが出来る
- ・休みの日には父親に子どもの面倒を見てもらいたい
- ・母親同士が仲がよいと、子どもも自然と友達になる。母親同士が抱えている悩みも同じようなものが多く、解決の糸口も見つかりやすい
- ・おじいちゃん、おばあちゃんにも子どもの面倒を見てもらって複数で育てることはよいことだと思うが、世間の目が冷たいこともある。もっとおおらかに見て欲しい

4班

- ・家庭によって、子育てに対する考え方の違いもあるので、親同士の話し合いも必要
- ・親同士のコミュニケーションをとり、お互いの子どもも叱りやすい環境をつくる

②日常の子どもの起こす問題の治め方

1班

- ・子ども同士のけんかの治め方
- いきなり怒らずに、まず、言ったことが理解できる年上の子からけんかになった原因を聞き出して、それから遠回しに注意する
- 原因をつくった方の子には説教をして、もう一方の子には噛み砕いて諭すようにする
- 二人一緒には怒らないようにする
- 大声をあげるのは、けんかの流れを止めるときだけにする。そのまま怒鳴って叱りつけない
- ・上の子が下の子にやきもちをやかないように、下の子のオムツ替えやミルクなどを上の子に手伝わせてあげたり、時々抱っこさせてあげたりする
- ・お風呂や歯磨きを嫌がる子に、それに関する絵本を読んであげる

2班

- ・人に暴力的なことをしたときは、しっかり叱る
- ・子どもが思い通りにならないことに対して泣き叫んで我を通そうとするときには、理由を言い聞かせて我慢することを覚えてもらう
- ・テレビの見させ方について。悪い影響ばかりでなく、一緒に歌ったり踊ったり、歯磨きができるようになったりすることもあるので、そういう部分は活用したい。利用の仕方が難しい
- ・子どもが自分でやる気を出したときは手を貸さない

3班

- ・2～3歳のころは、子ども同士のけんかで自我の出てくるころなので、子ども同士で解決で

きないときは親が悪いところを言い聞かせてあげる

- ・子どもは口の利き方や態度など、大人のする事を何でも真似したがるので、子どもを叱る前にまず自分はどうなのかに注意してみる

4班

- ・親の感情が入ってしまって日常の子どもの問題が起こってしまうことが多い
- ・危険な場所へはできるだけ行かせない
- ・友達とあそんでいるときに起こったけんかの注意の仕方が難しい

③子どもにきちんと教えること

1班

- ・あいさつをきちんとする。「おはよう」「おかえり」「ありがとう」「ごめんなさい」などを子どもと一緒に言う習慣をつくる
- ・人に迷惑をかけない。道徳心をもたせる
- ・道路への飛び出しや花火など火を扱う場合など、危ない事をきちんと教える。危険であるということを認識させ、子どもが自分で注意できるようにする。また、正しい扱い方やルールを教える
- ・食事の時間に遊ばない
- ・人を物で叩かない
- ・両親や近縁者など、目上の人には敬意を払う。何でも言うことを聞いてくれるおばあちゃんなど、召し使いのように思ってしまう

2班

- ・あいさつについて。朝起きたとき、出かけるとき、帰宅したときは必ず一声掛けるようにしている
- ・人を殴ったりしたときには、目を見て怒るようにしている
- ・車は怖いものであるという意識を持たせる
- ・人に物を投げない（特に顔など）

3班

- ・子どもにきちんと教えたいと思うが、感情が入ると上手く伝えられないことがある

4班

- ・道路で遊んだり、人に石を投げたりといったような危険な行動をしたときは、その場で注意する
- ・遊んだおもちゃはしっかりと片付けさせたいが、ほとんど守れていない
- ・お菓子は食事をしっかりと食べた後に食べさせるようにしている

④家族にルールはあるか

2班

- ・夫婦の会話は欠かさないようにする

3班

- ・今は家族にルールはないが、子どもがもう少し大きくなったら決めたい
- ・テレビを見る時間。おやつ・食事の時間、寝る時間は決めたい
- ・親はおもちゃを買わずにおじいちゃんたちを買ってもらう
- ・子どもに生活のリズムや我慢を覚えて欲しいので、ご飯のときはテレビを見ないというルールがあるが、見たい番組があるとつい見てしまう



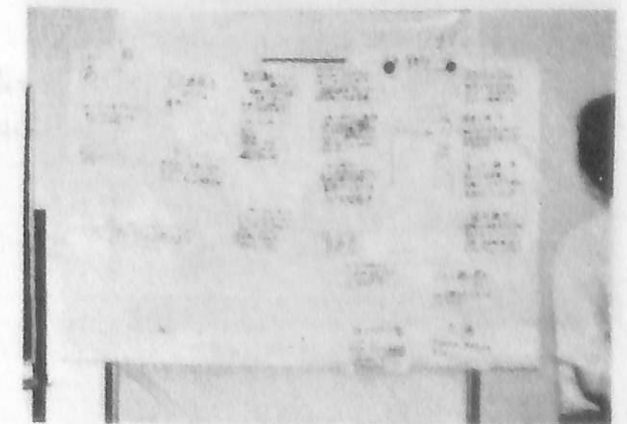
ワークショップの光景

講義

- ・父親の関わり方
- ・身の安全を身に付けさせる
- ・思春期に母親と離れるときがくるのでそれまで気にしない
- ・自分でコントロールすることを教える
- ・テレビのスイッチを切る
- ・自分で生きていくことを教える
- ・夫婦で話し合い子育てすることは、その体験が子どもの成長後の絆となり、人生80年時代を豊かに生き抜く知恵である
- ・子どもには、高校時代に対等な大人として対処する
- ・夫婦は、依存する存在ではなく長い時間生きていく共通な仲間としていくこと
- ・夫婦は努力しないと崩れる

まとめ

- ・三つ子の魂百まで
 - ・三歳ごろから子どもの言語が出てくる
 - ・意思を言葉で伝える時期
 - ・脳の発達が進んでくる
- ・氏より育ち
 - ・どう育てるのか夫婦で体験する
 - ・それなり（環境）の育ち方
- ・かわいい子には旅をさせよ
 - ・公園デビュー
 - ・ルールを身につけさせる



グループのまとめが終了

(第3回)

日時 平成12年10月7日(土) 9時30分～11時30分
場所 おおりの中会議室・第2多目的室
内容 子どもの心と体の発達(講義・実習)
講師 常葉学園短期大学助教授 橋爪千恵子
参加人数 21人(男性2人 女性19人)

講義

① 子どもとはなにか
「人格を持った別の人」という意識

② 乳児期の子ども
SILD 1年で600人死亡(日本)
うつ伏せ寝はあお向け寝の3倍危険である

- ・基本的な信頼関係をつくる
ex) 泣くと来てくれる
- ・安全に配慮した上で、様々な探索行動をさせてあげる

禁止ばかりしているとやる気を無くしてしまう

③ 乳児期前半の子ども

- ・自我が芽生える
- ・言葉が増える 2歳半～4歳
2歳…300語 3歳…1,000語 3歳半…1,500語 4歳…2,000語
- ・子どもの言葉を一生懸命聞いてあげる
⇒大人の話聞く子になる

④ 乳児期後半の子ども

- ・子ども同士(社会)の中で学ぶ
ex) ・我慢 ・教わる ・仲直り ・優しさ
- ・絵本を読み聞かせる
〈言葉〉生で言葉を聞く→言ってみる→返ってくる⇒理解
ex) 低い声(お父さん) しつけの内容→よく聞く

⑤ 親子関係は何型ですか

・逆L字型	◎T字型
父 — 母	父 — 母
子	子



真剣に講義を受ける受講者

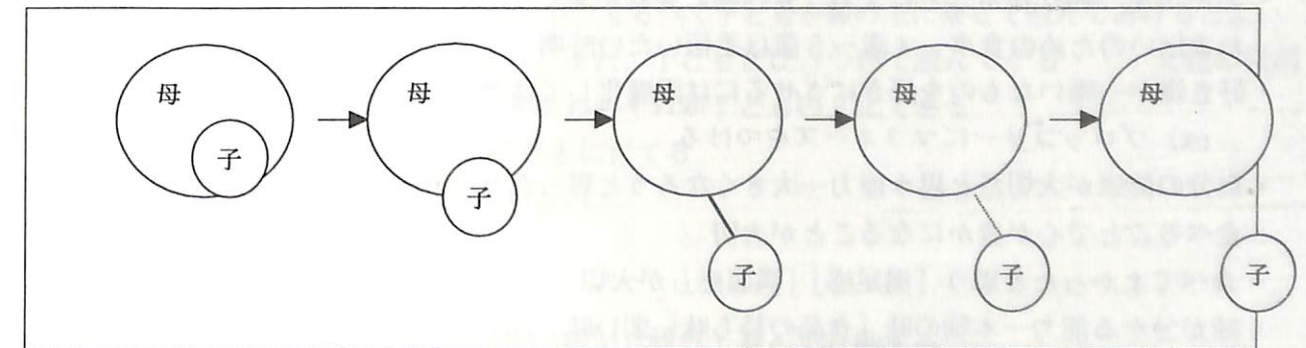
●本の紹介 「子どもへのまなざし」 佐々木正美 著(児童精神科)

《抜粋》「昨日、お母さんに爪を切ってもらった」

どこかに出かけてなくても子どもの心に残る→形のない贈り物

質問

- ① 友達と遊ぶ機会が多い(ママはお家に帰っていて)
- ・親としては寂しい
 - ・甘えてきたりもする
 - ・気持ちが揺れ動いている
 - ・家庭は子どもの安全基地



② 赤ちゃん返り

- ・子どもが「自分も愛されている」と納得できるまで続く
ex) 上の子と二人きりで気が済むまで遊ぶ

③ 保育園と幼稚園 どちらがよいか

- ・その子どもによって異なる

④ 祖父母とけんかして家の中の雰囲気が悪い。子どもに影響があるか。誤れば丸く納まるか

- ・子どもには影響あるだろう

絵実習 一絵本の読み聞かせ一

- ・表紙もしっかり見せる
- ・目線 周囲は何もない方がよい
- ・絵本を見せ、一呼吸おいて読む
- ・ゆっくり読む
- ・表紙・裏表紙がつながっているものは広げて見せる



読み聞かせの実習

- ・ 集団の中での自分の子どもの位置を知る
- ・ 絵本は男の子・女の子は関係ない
- ・ 「泣く」「悲しむ」などを経験させることが大切である
- ・ 多くの絵本が出版されているが、子どもが大好きな本は買い求めるとよい
- ・ いつ購入したか、そのときの親の気持ちを本に書いておくこともいい
- ・ これからの子どもの人生の糧となる
- ・ 子ども同士で喧嘩をした場合、なるべく止めないで様子を見ている→危険なところは親がサポートする
- ・ 子どもがおもちゃの取り合いをして、どうしても欲しいものがあるときは、物々交換をしてもよい
- ・ 指しゃぶりなどで困った場合、無理に止めさせないで泥んこ遊びなどさせるとよい(夢中になる遊びがよい)
- ・ 子どもを褒めるとき、頭を撫でない
- ・ 言葉をはっきり言えるようにするには、絵本を読むときなど、顔を見てゆっくりはっきり話してやる

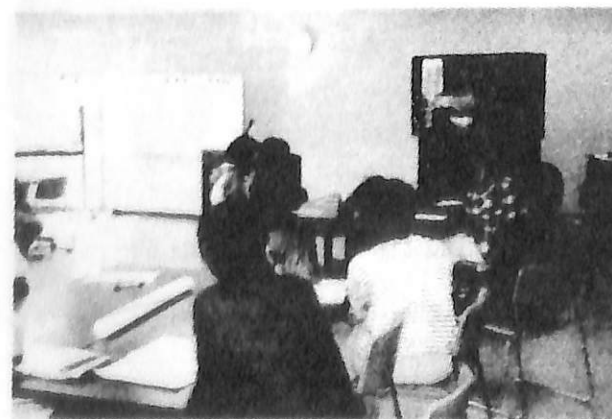


男性受講者に、受講理由を尋ねる滝井先生

(第6回)

日 時 平成12年11月12日(日) 9時30分～11時30分
場 所 おおるり第3多目的室
内 容 子育ての意義と楽しさを学ぼう(ビデオフォーラム)
講 師 静岡大学教授 馬居政幸
参加人数 13人(男性1人 女性12人)

- ① ビデオ視聴:「がんばれお父さん」
- ② 2班に分かれてワークショップ
議題:お父さんを家事に巻き込んでいく戦略を考えよう
- ③ 発表



ビデオの視聴中

[お母さんの言い分]

- ・ 下手に出てお父さんに家事や育児をお願いしても、頼んだことしかやってくれない。こちらやってほしいことを先回りしてはやってくれない
- ・ いくらがんばって家事や育児をやっても、ねぎらいの言葉はない
- ・ 家事・育児に対する母親への期待は無限大である。母親もいつも家に居るので結局は一人でやってしまう

[お父さんの言い分]

- ・ 押し付けられてやるのは嫌
- ・ 男性は自分の固定観念で決め込んでしまうことが多い。家事・育児に対しても母親がやるものというイメージが先行してなかなか参加する気にならない。子育てセミナーなどへの参加も、同様に二の足を踏んでしまう
- ・ 男も遊びたい。しかも、その遊びは子どものする遊びとイコールではない

[両者に共通している点]

＝子どもはかわいい

…しかし、現状はお母さん自身がお父さんに家事・育児を任せきれないでいる



一度思い切ってお父さんに任せてみる

＝家事・育児の大変さがわかるきっかけとなる



二人で、お父さんがどこからどこまで手助けすればいいかを話し合う

それぞれ、育ってきた過程が違うのだから、

お父さん像もお母さん像も一つじゃない

3・4班発表:

[お父さんを家事に巻き込む戦略として行っていること]

- ・ 子どもと一緒に風呂に入ってもらう
- ・ 買い物に行ったとき、子どもが「これはママに買ってもらった。」ということがある。そういうときに、「パパが一生懸命お仕事をしてくれてくれるから買えるんだよ。」と説明して父親の存在をアピールする
- ・ いただきもののお菓子やクリスマスプレゼントなどをお父さんが子どもに手渡すようにすると、子どもはお父さんが買ってくれたと思う。「よかったね、お父さんが買ってくれたね。」とおだてる
- ・ お母さんが自分の用事をつくり、お父さんに子どもと遊んでもらう
- ・ あらかじめ、お母さんがお父さんに週末の予定を言っておいて子どもの世話をする心構えを持たせておく
- ・ お母さんのストレス解消のためにも、お父さんに半日ほど子どもを公園などに連れ出してもらい、親子のコミュニケーションを図ってもらう
- ・ お母さんが、少しのことでも手が離せないと言って、子どもの着替えやおしっこなどをお父さんにやってもらうようにする
- ・ 子どもが母親に何か言ってきたときに、「手が離せないから、お父さんにやってもらって。」と言って、子どもからお父さんのほうに行ってもらう

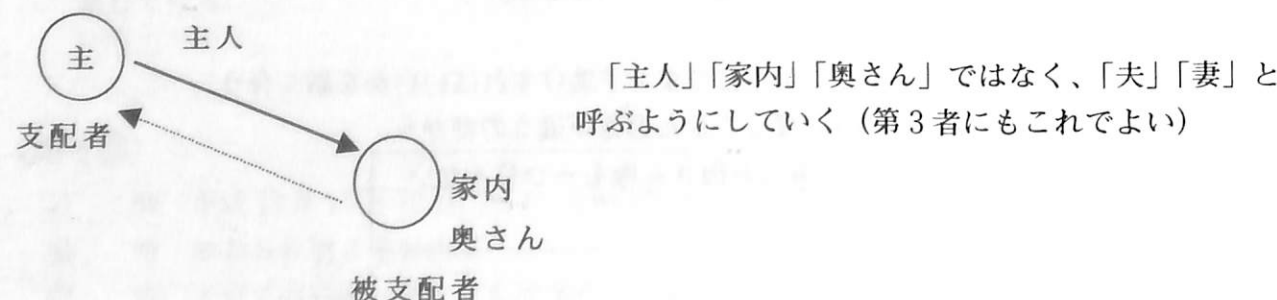
[大切だと思うこと、お父さんへの希望]

- ・お母さんが外出してお父さんに子どもの面倒をみてもらうより、家族で楽しむ機会を設けた
い
- ・朝、子どもにお父さんを起こしてもらうなど、子どもとお父さんのスキンシップを大切に
している
- ・お父さんの子どもへの「まなざし」で「大好き」が伝わり、子どもとの間にコミュニケーショ
ンが生まれるきっかけとなる
- ・あの手この手よりも、夫婦の時間（子どもが寝てからの話し合いなど）を大切に、夫婦の
信頼関係がしっかりすれば子育ても上手いくのでは。親が落ち着いていれば、子どもも安
心する

④コメント

フェリス女学院大学 諸橋泰樹助教授

- ・日本では、「夫」のことを「主人」といい、妻のことを「家内」「奥さん」と言う人が多いが、こ
れは他の国にはみられないことである



☆お父さんがお母さんの立場を理解する

人間— 人を生かす＝仕事、育児、介護 — 経済
＝自立
[自分が生きる＝メシ、着る、寝る etc]



夫が家事、育児、介護をしている or していない場合の満足度 諸橋先生による講義

	夫が家・育・介をしている	夫が家・育・介をしていない
妻	高 い	低 い
夫	高 い	低 い

- ・夫が家事、育児、介護をしていない家庭では夫の満足度は高いかに思えるが、実際には低く
なっている

(7) 各回の感想・反省等

第1回「みんなで子育て その1」

第1回ということで、会場全体に緊張感が漂っていた。ケーブルテレビが取材に来ていたこと
も要因となったように思う。

ワークショップについては、その言葉自体知らない人もおり、初回からKJ法を行うのはどう
だろうか、という意見が実行委員会ででたため、第2回に繋げるという意味で、まず自己紹介と
子育ての悩みを各自発表した後、それぞれの悩みをA5用紙に書き、悩み別に分類する作業を行っ
た。お互いの悩みをさらけ出すことで受講者同士打ち解けることができ、徐々にリラックスでき
たようだ。

参加者の実行委員にはまとめや発表もお願いし、かなりの負担になってしまったので、事前に
ワークショップの勉強会を開くなどの対応が必要だったと思う。しかし、どの人も初めてとは思
えないほど素晴らしい「まとめ・発表」をしてくれた。

第2回「みんなで子育て その2」

第1回は緊張感がみなぎっていたが、第2回はリラックスしていたように思う。男性も自分の
意見を活発に発言し、盛り上がったワークショップとなった。第1回で出された悩みの解決法も
でて、受講者自身子育ての悩みについて、解決の糸口が見つかったのではないだろうか。

受講者にとっては、ワークショップの中で自分の意見を言うことで、子育てのストレスを解消
したり、お互いの悩みを共有することで（悩んでいるのは自分だけではない）と安心したりと、
ワークショップ型の講座は好評であった。

第3回「子どもの心と体の発達を学ぼう」

子どもの成長についての講義、質疑応答、読み聞かせの実習など、様々な学習を行った。読み
聞かせでは、託児室に預けていた子どもに実際に読み聞かせをし、どのようにすればよいかを知
ることができ、また子どもたちも喜んでいたように感じた。男性参加も1名あったが、もう少し
参加してもらえればよかった。

第4回「簡単なおやつを作ろう」

おやつ作りは、ぜひ夫婦で参加してもらいたかったが、男性の参加はなく残念だった。参加し
た受講者達は、おやつ作り（肉まん）はもちろんのこと、食育についての講義も興味深く聞き入っ
ていた。これからは、女性ばかりが料理をするのではなく、できる人がやらなければならない。
男性参加を期待していた。

第5回「読み聞かせを学ぼう」

この回は、親子一緒に受講した。講座途中で、子どもがおもちゃの取り合いをする場面があっ
た。その際講師の先生が、じっと見守り、子どもが自分の思い通りにならないときどんな行動に
出るか、親によく見るよう言った。また、自分の方が悪いと思ったら謝ることを教えた。

また、父親も4名参加（この回のみ参加が1名）し、なぜこの講座を受講したかを話した。妻に
連れられてきた、という人もいたが、積極的にこのような講座があると参加している人もいた。た
とえ連れられてでも、こういう場面でてくると「受講してみてもよかった」という感想が聞かれた。

第6回「子育ての意義と楽しさを学ぼう」

第6回では、ビデオフォーラムを行った。しかし、欠席者が多く、ワークショップを4グループに分かれて行う予定だったが、2グループで行うことになった。

出席した人たちは、活発に意見を取り交わし充実した内容のワークショップができたように思う。男性が1名だったため、「男性の考え方」というよりむしろ「その人個人の考え方」だったのではないだろうか。

この回では、馬居さんが講座をはじめてからずっと気になっていた、夫のことを「主人」と言う、ということについてお話があった。男女共同参画について意識していたはずの受講者達も、無意識に「主人」と言っていた自分に気づき、ハッとした様子だった。

フェリス女学院大学の諸橋泰樹さんもお見えになり、最後に講義をしていただいた。①「主人一家内」について、②夫が介護・育児・家事をしているか否かによっての夫婦の満足度についてお話をいただいたが、大変分かりやすく、受講生は理解しやすかった。

第6回は、ビデオフォーラム・ワークショップ・講義と盛りだくさんで時間的余裕がなかったため、十分なまとめができなかった。そのため、男女共同参画を家庭教育において推進していくことや、第1回と第6回では意識に変化が見られたかどうか、受講者自身が気づくという面で多少不安な面があるように感じた。しかし、託児付の講座では、2時間が限度だった。それ以上長くなると、子どもが遊ぶことに飽きてしまったり、親と離れていることに我慢しきれなくなってしまう。

講座としては、あと30分あればまとめができたのではないだろうか。

4 事業の成果と今後の課題

(1)「男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策」の視点から見た感想・反省等

子育て講座と聞くと、乳幼児をもつ親たちは「しつけに関することを学習できるだろう」「おやつや絵本について教えてもらえるだろう」とは考えるが、「男女共同参画の視点に立って子育てを考えてみませんか?」と呼びかけても、「難しそう」「もっとすぐ役に立つもの(実習)を習ってみたい」と逃げ腰になってしまった。それを、男女共同参画を盛り込んで子育ての講座を企画することは、ブックレットなしでは大変なことだったに違いない。

幸いにも、ブックレットのプログラムがあったため、実行委員会で検討した結果、ほぼそのままではよいのではないかと(「ブックレットの活用について」に記載)ということになり、「楽しい子育てセミナー」の開催となったわけだが、第3～5回については、男女共同参画というより「乳幼児のしつけ等」の講義・実習になった。受講生の中にはそれを目的に来た人もあり、そういう人にとっては第1、2、6回を受講したことにより「男女共同参画は、子育ての中にも取り入れなくてはならない大切なことだ」ということも分かり、よかったと思った。

事前アンケートと事後アンケートを比べてみた。(但し、事後アンケートは出席者が少なかったため事前アンケートと比較することは困難であるが。)集計結果については別紙のとおり。「男性は仕事(職業)に専念し、女性は家庭を守るのがよい」という問いでは、事前は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という人が1/4を占めていたが、事後は0人になった。又、これは事前・事後共にいえることだが、職場では、女性が男性と同じように働くこと、若しくは地位が上になってもいいと考えてはいるものの、実際どうかというと、現実には難しいと考えていること

が分かった。その他、事後は男女問わず「男性も育児休業をとるべきだ」と考えるように変化している。セミナーを受講したことによって、男女共同参画の意識が芽生え、女性だから育児をして当たり前、男性は仕事だけしていればよい、という考えが変わりつつあるのではないかと。受講者の中には、男だから・女だから〇〇しなければならない、というのではなく、その人自身の考えを尊重した方がいい、といった意見も聞かれた。

(2)「楽しい子育てセミナー」全体を終えてみての感想・反省

このセミナーを終えてみて、受講者は、心の中に蓄積されたストレスや悩みを、誰かに話すことによって解消できるので、そういう場が必要であると感じた。今回のようにワークショップ型の講座はこれからの主流となるだろう。やはり、講義を聴くだけでは受け身なので、その時は納得できてもすぐ忘れてしまう。その点、自分の言葉で語りお互いの意見を交わせば、相手の意見に共感できた時に、自分自身のものになっていくのではないだろうか。

セミナーを開催するに当たり、実行委員の人材に恵まれたことは何よりも嬉しいことだった。初めてと言いつつも、ワークショップの中できっちりとしたまとめ、予想以上の素晴らしい発表をしていただけたことに大変感謝している。実行委員会の打合せでも、受講者は何を知らなかったのか、自分達はどんなことをできるのか、積極的に発言してくれた。

受講者においても、初めこそ緊張していたものの、積極的に意見を出し合い、乳幼児を託児に預けて6回(月にして3ヶ月)という長い間出席していただけたことは嬉しいことである。受講している間、自分の子どものことが気になって仕方ない人もいただろうが、託児員の強力なサポートによりこの6回を無事終えることができた。

全体を通してみると、様々な人の協力を得ることができたからこそ、このセミナーを終えることができたのだと思う。最終回に人数が集まらなかったり、慣れない中ワークショップをしてもらったりと、反省すべき点も多々あるが、この「楽しい子育てセミナー」は成功したといえるのではないと思う。次回このような講座を開催する際は、今回の反省点を踏まえよりよいものをつくっていきたいと考えている。

5 参考資料

楽しい子育てセミナー実施要項

趣 旨	・育児は女性といった固定的な性別役割分担主義を是正し、父母がともに子育てをする意識を高める。 ・男の子らしさ女の子らしさにとらわれない子育てが図れるようにする。 ・父親が子育てへの関心や自信をもてるよう、必要な知識の学習や実習を行う。
対 象 者	乳幼児をもつ男女（夫婦での参加歓迎）40名程度 託児25人
募 集 方 法	広報…コミュニティしまだ7月15日号、ちらし
期間・時間帯	9月2日～11月12日 (9月2日・16日、10月7日・21日・29日、11月12日) 午前9時30分～11時30分
会 場	プラザおおるり（島田市中央町5番の1）

〈学習プログラム〉

8月11日（金）までにアンケートを回収。

8月22日（火）にアンケート集計、グループ分け（8人×4グループ）をする。

回	月 日	主 題	方 法	内 容・プロセス・留意点	学習支援者
1	9.2 (土)	みんなで子育て その1	・国立女性（婦人）教育会館挨拶（10分） ・講義（25分） ・自己紹介及びグループワーク（8人×7分＝55分） ・グループ発表（15分） ・問題提起（10分）	セミナーの目的、家庭教育についての講義。 自己紹介と、子育てについて悩みを出し合う。時間があるグループは、悩みの解決方法についても話し合う。 (〇〇の悩みはこうするとうまくいったよ、といったような感じでよい) ※男女共同参画について考えなくてよい。 グループごとに発表する。 親が暗くなっているのは、楽しい子育てはできないので、みんなで楽しく子どもと遊びましょう！ 男の子女の子らしさを越えたその子らしさとは？	馬居政幸

				2回目までにカードにどんな子に育てたいか具体的（男女別）に書いてくる。	
2	9.16 (土)	みんなで子育て その2	・あいさつ（5分） ・ワークショップ①（KJ法）（10分） ・グループ発表（15分） ・講義（30分） ・ワークショップ②（KJ法） ・グループ発表 ・まとめ（15分）	どんな子に育てたいか書いたカードを、種類別に分類する。 グループごとに発表する。 乳幼児期の子育ての大切さ（性別による固定的な子ども観や考え方や育て方の問題点、男の子女の子にとらわれない育て方等）についての講義。 性別にとらわれない育て方についてカードに各自書き出し、種類別に分類する。 グループごとに発表する。 助言・反省とまとめ ねらい…男の子女の子にとらわれない育て方に気づく・受講者自身のジェンダー・バイアスについて気づく	馬居政幸
3	10.7 (土)	子どもの心と体の発達	・講義 ・実習	子どもの心身の発達について講義・読み聞かせの実習	橋爪千恵子
4	10.21 (土)	簡単なおやつを作ろう	・講義 ・実習	食育の講義と肉まん作り	塩沢春美
5	10.29 (日)	読み聞かせを学ぼう	・講義 ・実習	子どもと一緒に、絵本を通して男女共同参画について学ぶ。	滝井なみき
6	11.12 (日)	子育ての意義や楽しさを学ぼう	・ビデオフォーラム ・ワークショップ（KJ法） ・グループ発表 ・まとめ	ビデオ「頑張れお父さん！」を視聴する。 内容についてグループ討議をする。 (気づいたこと、現状での問題点について、各自カードに書く) グループごとに話し合ったことを発表する。 固定した父親像、母親像にとらわれない子育てへの関わり方について受講者自身が気づき、納得できるようにする。	馬居政幸



NWEC

シンボルマーク

「両手を空に掲げ、希望に燃える女性像をデザイン化」したものです。